



夜中。。。知らない間に処女を失い。。。
腸内で孵化した寄生虫を膣内に迎え入れた彼女。。。
彼女の身体は寄生虫によって更に改造されていく。。。

そして夜。◆◆◆彼女の部屋。◆◆◆



あれ... 暗い...
ずっと寝てたんだ...

...んっ



朝起きた後、寄生虫によって意識を失ってた彼女。◇◇
学校に行った記憶はなく、朝から夜になった今まで
ずっと寝ていたと思い込んでいた。◇◇◇◇

あれ…暗い…
ずっと寝てたんだ…



なんか体が重い……

まだ体調……
戻ってないっぽいなあ……



そう言いながら確認するために彼女は自分の体に目をやると、
なぜかパンツを履かず、はだけたパジャマから異様に膨らんだお腹が目に入った・・・



その直後、更にお腹が勢いよく膨らみボタンが外れ胸が露わになる。彼女のその姿は臨月の妊婦のようだった。◆◆◆



これ...
病気...

救急車... ママ...
呼ばないと...

んん...

んん...



助けを求めようと起き上がろうとした瞬間、彼女の身体に異変が生じる。◆◆◆◆◆



前触れもなく子宮が飛び出し、喉を伝って何かが遡ってくる。
そして



!?

えげええつ!!

んん

んん...

んん...

んんん





!

あーっ!
あああーっっ!!

ズズズ...

ズズ...

ズズ...

ズズズ...

口から現れたのは巨大な寄生虫。そして股から這い出た寄生虫は、彼女の子宮と融合していた。



んーっ!!
んんーっ!!

んんん...

んんん...

んんん

んんん...

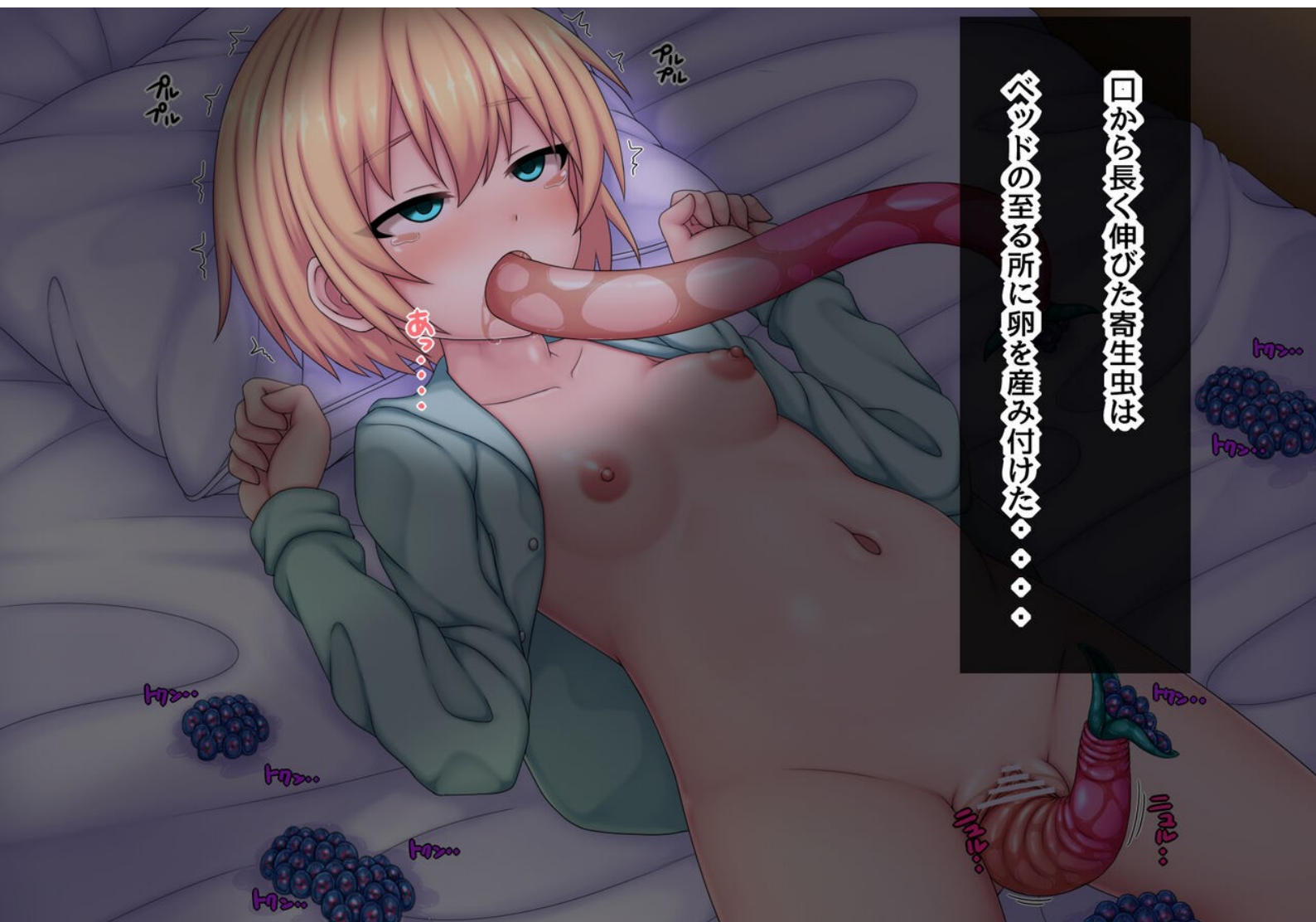
んんん...



子宮と融合した寄生虫から溢れる卵・口から伸びた寄生虫もベッドに卵を産み付ける・
そして色の变化から、口の寄生虫も体内で彼女と一体化しているのが分かった・



あまりの光景に彼女の意識は遠のき、卒倒してしまう。◆◆◆

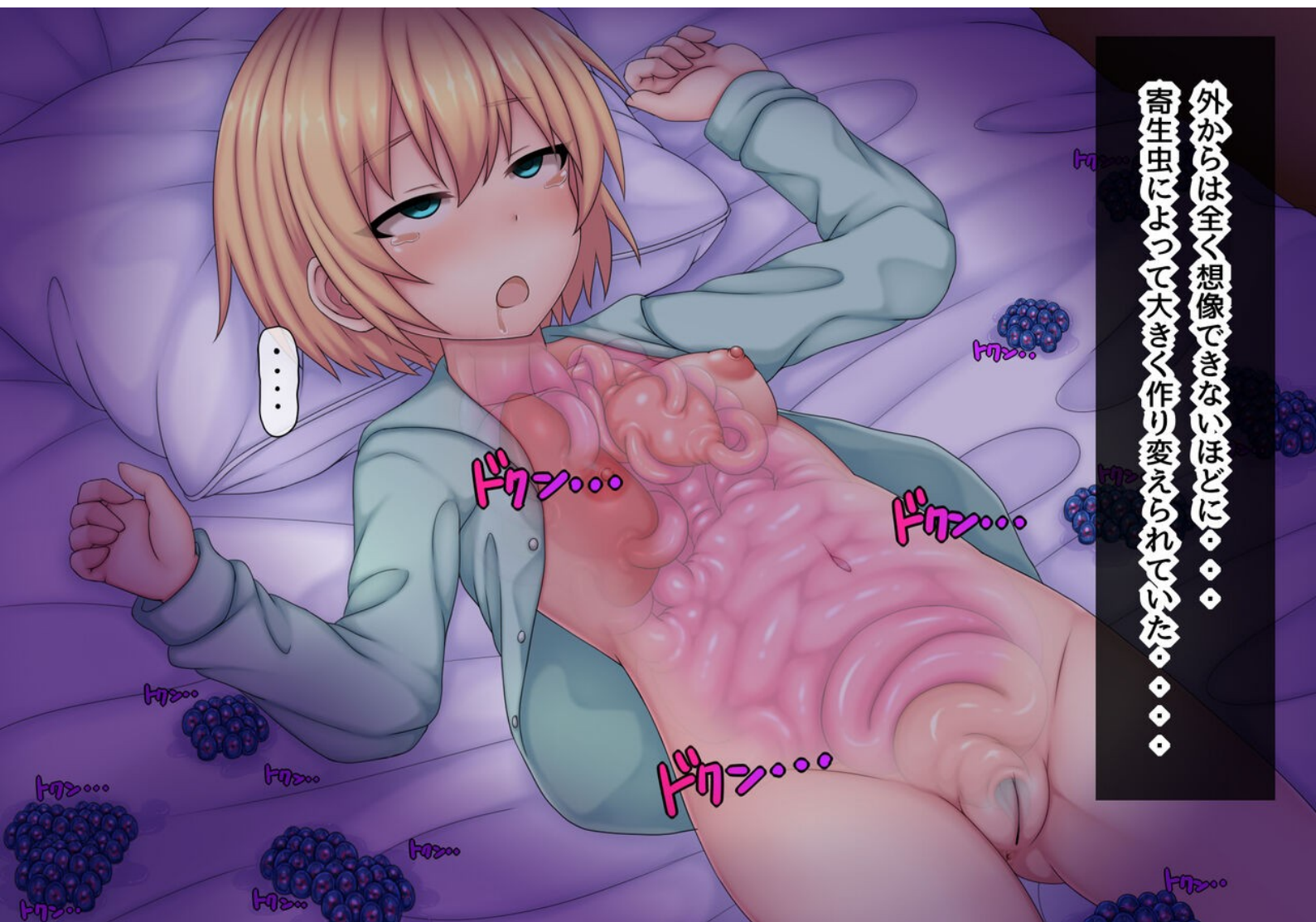


口から長く伸びた寄生虫は
ベッドの至る所に卵を産み付けた。◆◆◆



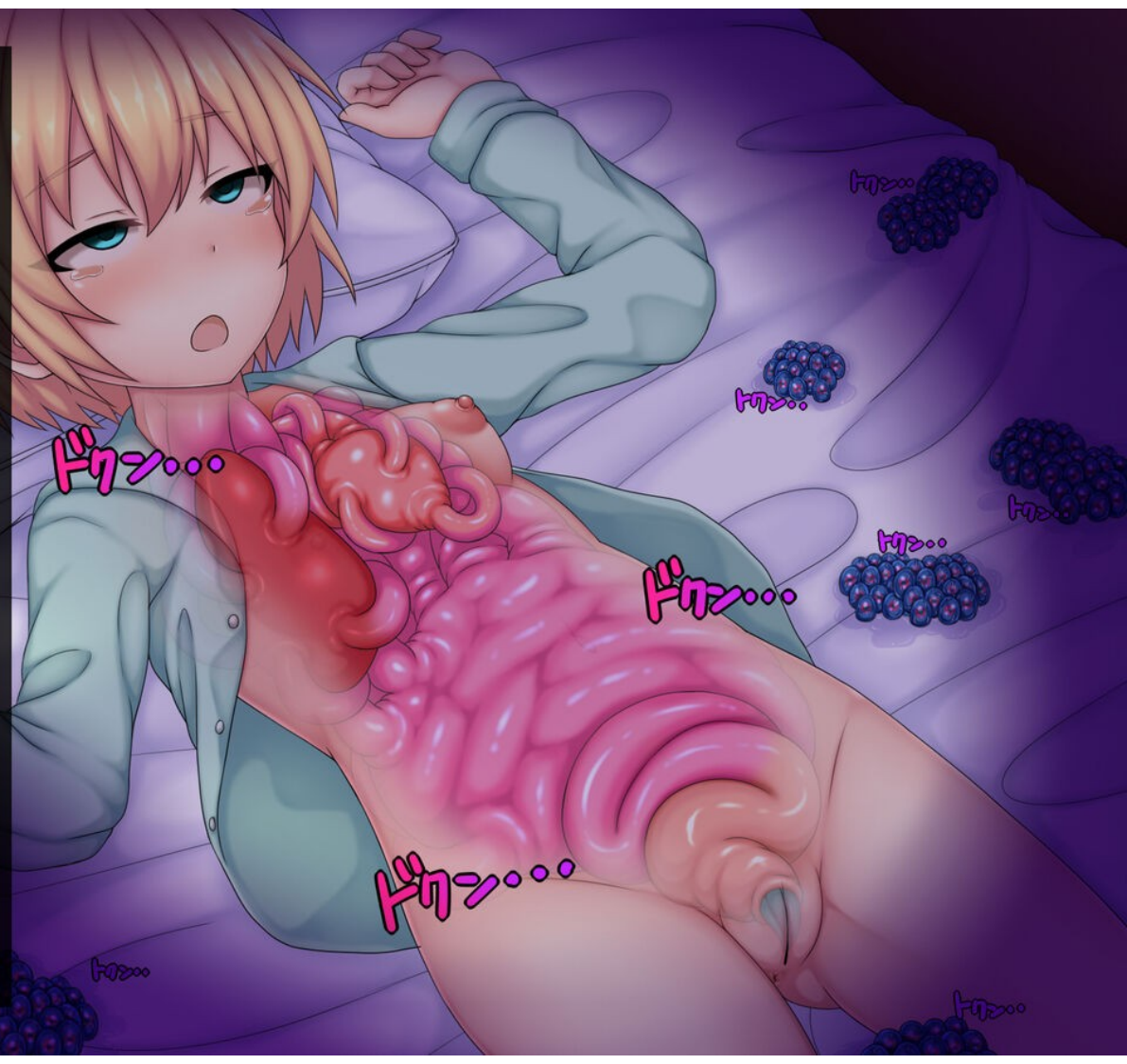
すべてを産み終え、彼女のお腹は元に戻り、寄生虫もゆっくり彼女の体内へと戻っていく。



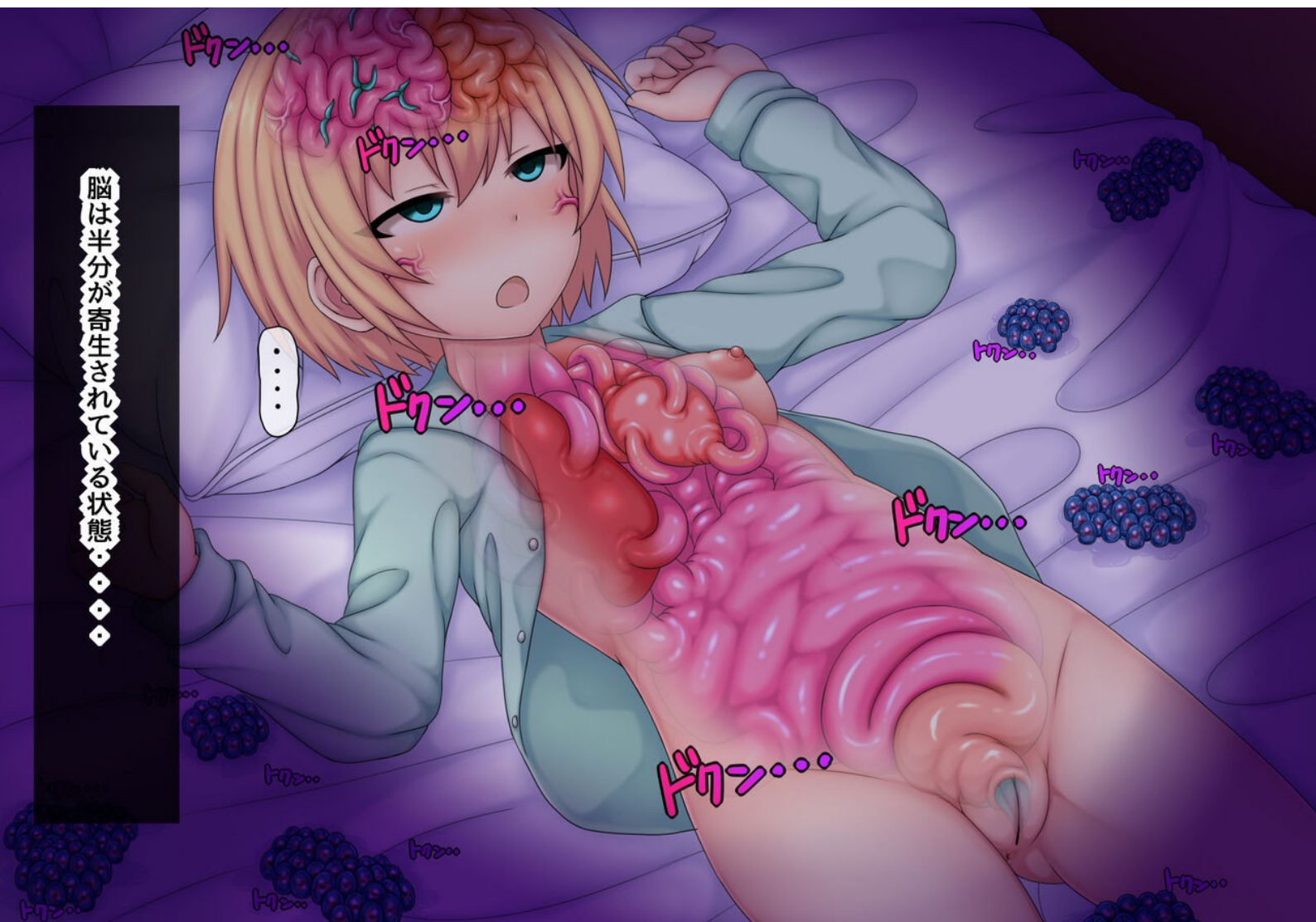


外からは全く想像できないほどに。寄生虫によって大きく作り変えられていた。

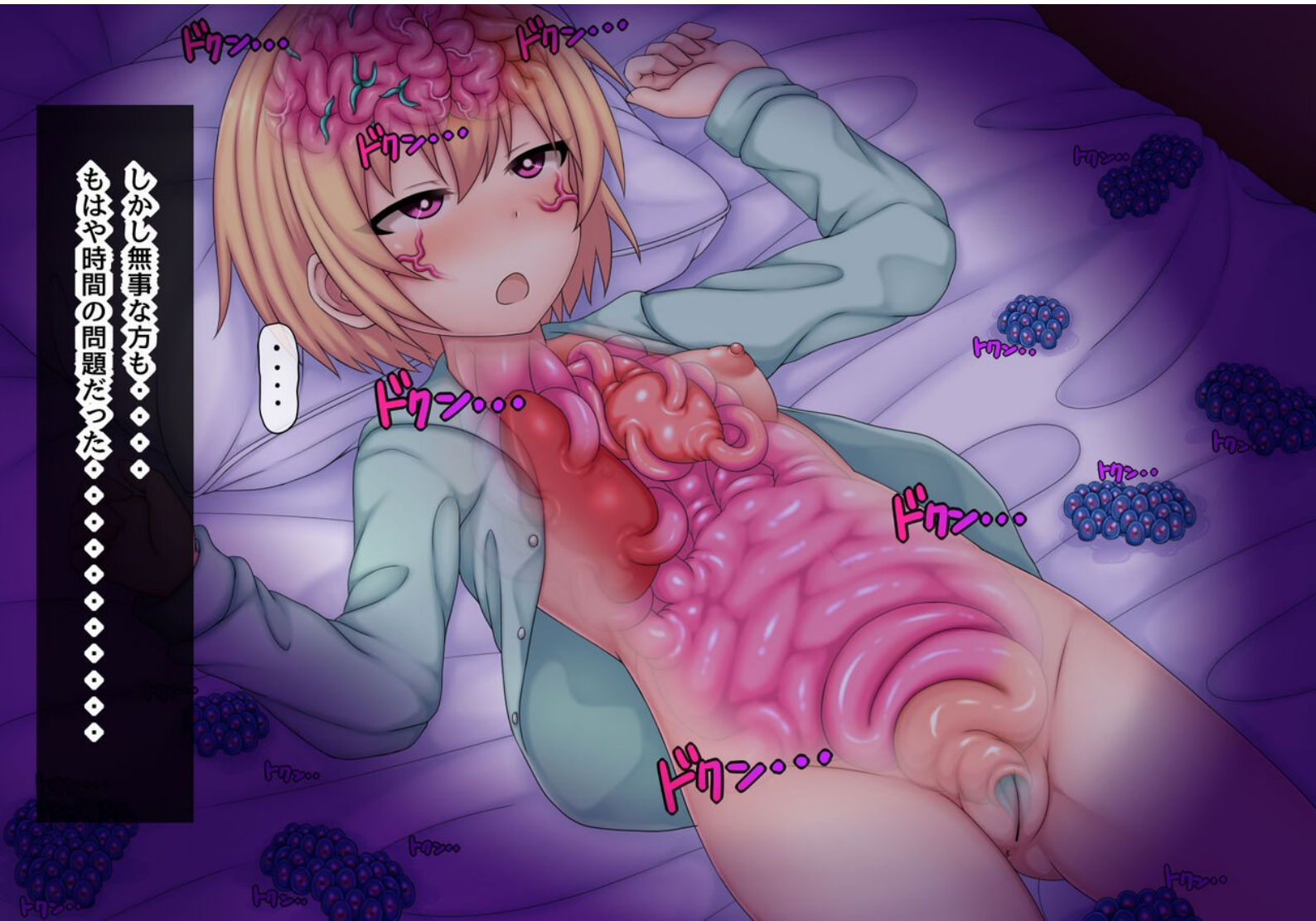
心臓と片方の肺。◆◆◆
宿主を生かすための必要最低限な臓器を残され。◆◆◆
それ以外のすべては寄生虫によって作り変えられていた。◆◆◆
大腸・小腸などがあるはずの下腹部は
すべて卵を蓄えるための袋のような臓器となっていた。◆◆◆



脳は半分が寄生されている状態。◆◆◆



しかし無事な方も
もはや時間の問題だった





その夜◆◆◆◆

僕は夢を見た◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

助けて
.....

● ●
助けて
.....





助けて……

私の中に……
何かいるの……

場所は学校のいつもの場所。◇◇◇
彼女は涙目で僕に助けを求めていた。◇◇◇



びび

びび

私・・・
意識なくなつて・・・

こらしが・・・
吐いて・・・



こいつが…
出てくると…

彼女が何を言ってるか分からない。でも困っているのは分かる。

しかし夢の中の僕は

声を出すのも、身体を動かすこともできず、ただ彼女を見ることがしかできなかつた。

私…
意識なくなつて



私のじゃない
みたいになって...

どんどん身体も...



!!?

あいつが.....出てくる.....

あっ.....だめ.....

ズン...

ズン...



!

あたしを...
取らないで...

いや...
もうやめて...

どっぴん



あつ...

あつ...

あつ...
ああああ...

この人間のメス...
若くて健康な身体だ

ズズ



ありがとうございます...♡♡♡
ごぞいます...♡♡♡

大切に使うてやる...
感謝しろ...

宿主に選ばれたことを
光栄に思え...

あはっ...♡

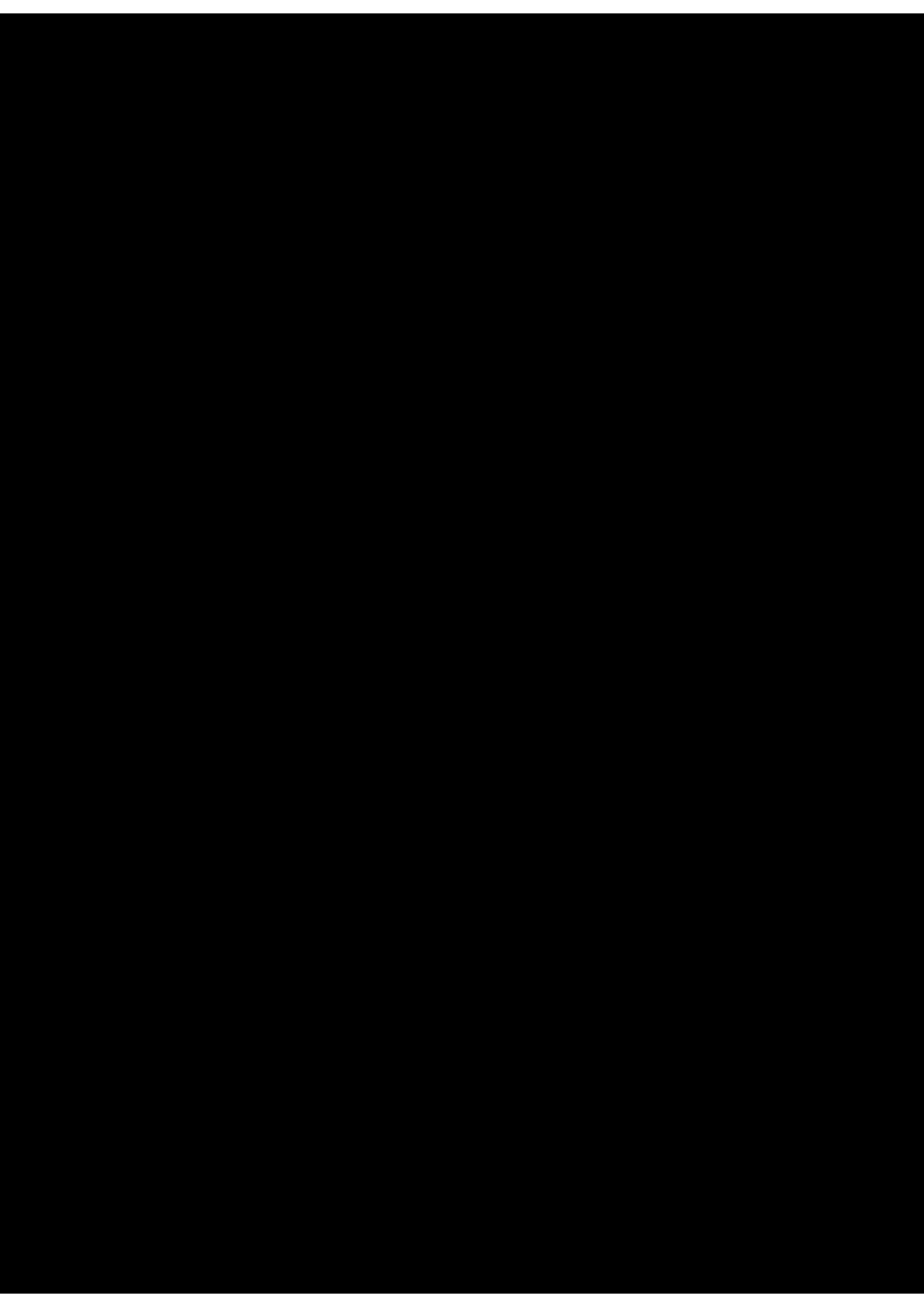


ただ呆然と彼女の様子を眺めていた僕は。。。。

途端に視界がぼやけ。。。。夢から覚めていく。。。。

そして朝になると、僕は夢の事は覚えていなかった。

ただ怖い夢を見たような気がする。としか。



そして朝

●●ー!
いつまで寝てるの!
起きなさい!

母の声ですくつと起き上がる……
不気味な様子の彼女の顔にはまだ寄生痕がわずかに残っていた……



ベッド中に産み付けられた卵は、いつの間にか跡形もなく消えていた……

声のする方をじっと見る……



さっさと準備して
朝ごはん食べなさい！



あ
あ
あ

あ
あ
あ

あああ
あえ



声を出しながら、口、肩、目と顔全体を確かめるように動かす.....



あえー.....
ああー.....

えへえー.....





人間のメス・・・
記憶も身体も・・・
あたしのモノ・・・
♡

ふふ・・・
これで全部・・・
♡





こらあ！起きなさい！
遅刻するわよっ！！



はいママー♡



はいママー♡

どうどう寄生虫は彼女を完全に支配した。◆◆◆

それは作り変えられた身体だけでなく、

脳のすべてを侵蝕し、

彼女の記憶や心も完全に乗っ取ったのだ。◆◆◆

そして昼
◆◆◆
いつもの階段
◆◆◆◆◆



背後に立った彼女は、あの面積の少ないパンツを履いていた...



○○君っ
おはよー♡

おはようっってお前...
それに君付けとか
気色悪いわ...



若いオスには君付けが多いって
記憶があつたんだけど・・・
違った？w

はあ……

まだ記憶を全部
引っ張り出してないんだよねー



何言ってるんだお前



男との会話に齟齬が生じ、彼女は人間だった頃の記憶を辿るため、自らの脳を弄(まさぐ)る

あつ・あつ・
あー・なるほど

〇〇は・呼び捨て・
特別な存在・
恋愛感情の有無は・
うん・うんうん

どうした？
厨二病アニメにでも
影響受けたのか？



www

ひひひ..

ねーねー〇〇..
ちよつとこいしち回ごてお

ひひひ
〇〇〇〇

ひひひ



男が振り向くと、彼女はスカートを持ち上げ大胆なパンツを見せつける。◆◆◆◆◆



じゃーんw

えっちなパンツーw

おっ



このパンツは、いつか誰かと
交尾する時のために
買ったんだってーw

このメスって頭の中
えっちな事でいっぱいなんだよw
知ってたあ?

お前・っ!
誂うにも限度があるぞ!
それにそんなの学校に
履いてきて・・・
もし他の男子に
見つかったら・・・



www

ww

人間特有の嫉妬って
感情だよな？w

それって他のオスに
取られたくないって事？

ニヤ
ニヤw

ニヤ
ニヤw

そうやってすぐ
茶化しやがって……

^^
^^



突然彼女はスカート脱ぐ……



よごせやん

こっちは…その…
ちよつとだけ心配
してたんだぞ…

いっ
たっ





プル
プル

プル
プル

んーっ…

アッ…♡

最近お前の様子が
おかしくて…



ブルブル

ブルブル

んっ...っ♡

♡

♡

何か隠すように
すぐに帰っていったり...

ズン...ズン
♡...♡



あはああああ...

ぐわんぐわん

元気なお前が...
突然学校休んだりさ...

ぐわんぐわん

ww

フフフ・・・
いっぱい出しちゃったあ♡

人間の体って排泄物出す穴で
快感得られるとか・・・
作ったやつ頭おかしすぎいw

お前はいつも茶化したり
逃ったりするけどさ・・・
俺は・・・けっこー・・・
心配してるんだぞ・・・





あ...

Kinnin

俺なんか心配なんて
しなくて
お前の事だから大丈夫
だろうけどさ...

inn
inn
inn

っっ

おととと..
パンツ落ちちゃう..

びびっ

びびっ

ズズ...♡

キリキリ...♡

なんか悩みとかあったら
言ってくれても...いいぞ..
まあ解決とかは無理だけど
聞くぐらいならさ..

んんん♡
んんん♡
んんん♡





.....んっ?

?

って聞いてんのか?
さっきからブツブツ
何か言ってるけど...

ズズズズ

ズズ...♡

ムムム

ムムム
ムムム
ムムム

www

ww

ようは〇〇は
寂しかったんだねw

あはは...ごめんごめんw



グワッ

グワッ

ズン

ズン...

ズン

グワッ

ズン

ズン



ほら、よしよししてあげよう♡
よしよし♡
よしよし♡

♡よし♡

♡よし♡

ズンズン♡♡

ズン♡

ズン♡

ズン♡

なんでそうなるんだよ...
って、頭撫でんな...

んんん♡

www

ww

あははw
照れてる照れてるw

あははw

ササッ

っていい加減にしろ!

グッ
グッ



すると彼女のお腹が鳴る.....

びん.....

びん...
びん...

なんだ？
まだ昼ごはん
食べてないのか？

びん





うん、まだこの身体だと
食事が上手くできないみたい

そっか、体調崩して
学校休んでたもんな・

ぐわん
ぐわん

長く伸びた舌を唾液が伝い落ちる・

あ

っっ

明日にはもつと便利な身体になると思うけど……

もうお腹空いてぺこぺこだよー

はー！
べろーん♡
はー！

びゅん……

?

便利？
まあ病み上がりだし無理すんなよ？

びゅん
びゅん
びゅん





お腹空かせて
会いに来るね♡

だからまた明日♡

はっ♡

はっ♡

いやいご飯は。
食べてから来いよ

ズグッ...

意味深な言葉を残し、消えるように彼女は居なくなつた。

噛み合っているようで噛み合っていない会話。

彼女の本当の姿を見ることのなかつた男は、この違和感に気付かなかつた。

あれ・・・？
いつの間に帰つた？
まあ・・・元気そうだし
いいか・・・



「ちゅっ・・・」

ん・・・?
なんか頭がぬるぬるしてる・・・
なんだ・・・

なぜ濡れているのか。◆◆◆

男の頭に乗せられていたのは、彼女の手ではないと
髪の毛越しの感触では気付かなかつた。◆◆◆

そして男は昼ごはんを終え、教室へと戻って行った。◆◆◆

